NIPPON GOOD PARTS NGP

2022 No.379 10月号

News

全国整備工場の皆様へ
NGP組合員200拠点がお届けする
お役立ち情報

2022年10月19日発行
■発行責任者／佐藤幸雄 ■編集・制作／(株)プロトリオス
■発行／(株)NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL03(5475)1200

自動車リユース部品を利用したサーキュラーエコノミーへの取り組みが評価される

NGP協同組合、「第5回エコプロアワード」にて「経済産業大臣賞」を受賞

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（小林信夫理事長）は、一般社団法人サステナブル経営推進機構が主催する「第5回エコプロアワード」において、「自動車リユース部品でカーボンニュートラルに貢献～CO_2削減効果の定量化と研究成果を活用した普及・啓発」のテーマで「経済産業大臣賞」受賞しました。

同様の活動・テーマでは、2021年11月の「第22回グリーン購入大賞」における「大賞・経済産業大臣賞」受賞、「令和3年度気候変動アクション環境大臣表彰」受賞、同年2月の「第17回LCA日本フォーラム表彰」における「経済産業省産業技術環境局長賞」受賞、同年3月の「第24回中小企業組織活動懸賞レポート」における「本賞」受賞に続き5度目の受賞、大臣表彰は3度目の受賞となります。

今回受賞した「エコプロアワード」は、優れた環境配慮が組み込まれた製品、サービス、ビジネスモデル等を表彰することによって、これらのさらなる開発・普及の促進を図り、持続可能な社会づくりに寄与することを目的とした表彰制度です。表彰式は東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催される「エコプロ2022」の会場内で、12月8日に行われる予定です。

■受賞概要

＜受賞活動＞
自動車リユース部品でカーボンニュートラルに貢献～CO_2削減効果の定量化と研究成果を活用した普及・啓発

＜選評＞
・リユース部品の付加価値向上が図られ、産官学連携、教育効果も高く素晴らしいものであり、自動車部品の網羅的なLCAを実施し、リユース部品の環境貢献度合いを数値化し、伝える取り組みをしている点が環境面・経済面共に優れている。また、新品部品の50%の販売価格を実現することで、利用者側もリユース部品を選択しやすくなり、経済性及び社会全体への普及という観点でも優れている。
・産学共同研究によるCO_2の定量化を長年実施し、結果の公表や普及啓発を継続して実施していることで、安全や性能面を重視する自動車製品でリユース修理が普及していると思われる。これはユーザビリティの工夫を重ねている結果で、地道なサーキュラーへの取り組みが評価できる。

■受賞活動（産学共同研究）について

NGPでは、「自動車リユース部品」が環境にやさしいことの根拠を定量的に示すことで、リユース部品の付加価値を高めて、利用するユーザーの環境貢献意識を向上させ、地球環境保護に貢献したいという思いから、富山県立大学工学部機械システム工学科・森孝男名誉教授、明治大学理工学部機械情報工学科・井上全人教授と2013年5月より「自動車リサイクル部品産学共同研究会」を立ち上げ、自動車リユース部品を活用した場合のCO_2削減効果値算出についての産学共同研究を開始しました。

LCA*1の計算ソフトを使用してCO_2削減効果の定量化に成功し、2016年4月に記者会見でそれまでの研究成果を公表しました。同時に専用のホームページ「NGPエコプロジェクト」（https://www.nepp.jp）を開設し、研究成果を公開しています。

産学共同研究では今後、SDGsの目標達成とカーボンニュートラルの実現に寄与すべく、部品の調査対象をさらに増やし、NGPの販売する自動車リユース部品全てのCO_2削減効果が算出できるように継続していくとともに、自動車のライフサイクル全体のLCA評価方法の確立が不可欠であることから、部品だけでなく、製造から廃棄に至るまでのLCAの研究に拡大していきます。2022年12月7～9日に開催予定の「エコプロ2022」においては、研究成果を活用した展示を行う予定です。

今後もリユース部品の利用拡大に取り組むことでカーボンニュートラルに大きく貢献するとともに、研究成果を活用した教育支援や豊島の環境保全・再生に取り組み、自動車リサイクルを通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

*1　LCA（ライフサイクルアセスメント）とは、部品を生産する時に発生するCO2だけではなく、部品を作るための資源採掘から、原料生産、部品生産、使用、処理までライフサイクル（生涯）、アセスメント（評価）する手法のこと。

登録車・軽四輪車ともに普及台数の減少傾向が続く

Topics

自検協・全軽自協、世帯当たり普及台数を発表

自動車検査登録情報協会（自検協）は8月18日、2022年3月末時点における自家用乗用車（登録車と軽自動車の合算）世帯当たり普及台数を発表しました（**表1**）。

それによると、自家用乗用車保有台数は前年度から約4万台減少し6,165万8,779台、外国人住民を含めた世帯数は前年度より約26万世帯多い5,976万1,065世帯でした。保有台数が減少する一方で世帯数は増加しており、世帯当たり自家用乗用車普及台数は昨年度から0.005台減少し、1.032台となりました。都道府県別の普及上位は福井県、富山県、山形県で、世帯当たり1台以上普及していたのは39県でした。

また、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）は8月26日、2021年12月末時点の軽四輪車世帯当たり普及台数を発表しました（**表2**）。

軽四輪車の保有台数は前年より約12万5千台多い3,149万8,010台で、外国人世帯を除く世帯数は前年より約37万2千世帯多い5,822万6,982世帯でした。その結果、軽四輪車の世帯当たり普及台数は前年より0.0013台減り、0.541台となりました。都道府県別の普及上位は長野県、鳥取県、佐賀県、島根県の順で、この4県が1世帯当たりの普及台数が1台を超えています。普及率の低い順では、東京都、神奈川県、大阪府、埼玉県、千葉県、北海道、京都府、兵庫県と続き、同8都道府県では1世帯当たりの普及台数が0.5台を下回る結果となりました。

表1　自家用乗用車保有台数と世帯当たり普及台数

（都道府県別・ランク順）
2022年3月末時点　出典：自動車検査登録情報協会

都道府県	保有台数	世帯数	1世帯当たり台数	順位	前年順位
福井	513,057	300,337	1.708	1	1
富山	707,764	428,304	1.652	2	2
山形	689,687	420,046	1.642	3	3
群馬	1,379,696	866,229	1.593	4	4
栃木	1,341,586	853,634	1.572	5	5
長野	1,377,751	884,246	1.558	6	6
茨城	1,989,961	1,281,935	1.552	7	7
岐阜	1,295,992	838,840	1.545	8	8
福島	1,218,685	794,140	1.535	9	9
山梨	559,257	367,594	1.521	10	10
新潟	1,384,525	910,832	1.520	11	11
佐賀	510,639	340,660	1.499	12	12
石川	725,814	493,950	1.469	13	13
鳥取	345,781	239,626	1.443	14	14
三重	1,161,734	807,206	1.439	15	15
島根	408,373	293,449	1.392	16	16
岩手	738,273	532,269	1.387	17	17
静岡	2,225,777	1,619,334	1.375	18	18
秋田	584,277	425,716	1.372	19	19
徳島	455,795	337,343	1.351	20	21
滋賀	812,219	601,688	1.350	21	20
岡山	1,161,951	861,452	1.349	22	22
香川	591,504	445,500	1.328	23	23
熊本	1,039,100	796,476	1.305	24	24
沖縄	875,252	684,209	1.279	25	25
宮崎	677,898	530,291	1.278	26	27
大分	692,918	542,048	1.278	27	26
宮城	1,297,527	1,023,972	1.267	28	28
愛知	4,202,395	3,386,297	1.241	29	29
山口	816,292	658,993	1.239	30	30
和歌山	542,197	442,544	1.225	31	31
青森	723,306	594,018	1.218	32	32
鹿児島	955,884	810,877	1.179	33	33
愛媛	744,071	655,708	1.135	34	34
高知	395,653	350,680	1.128	35	35
長崎	698,119	632,206	1.104	36	36
広島	1,459,963	1,328,418	1.099	37	37
奈良	651,151	603,937	1.078	38	38
福岡	2,622,674	2,488,624	1.054	39	39
北海道	2,783,685	2,796,536	0.995	40	40
千葉	2,833,557	2,986,528	0.949	41	41
埼玉	3,228,761	3,431,677	0.941	42	42
兵庫	2,314,061	2,583,222	0.896	43	43
京都	994,667	1,233,229	0.807	44	44
神奈川	3,055,135	4,468,179	0.684	45	45
大阪	2,777,887	4,433,664	0.627	46	46
東京	3,096,528	7,354,402	0.421	47	47
合計	61,658,779	59,761,065	1.032		

表2　軽四輪車保有台数と世帯当たり普及台数

（都道府県別・ランク順）
2021年12月末時点　出典：全国軽自動車協会連合会

都道府県	保有台数	世帯数	1世帯当たり台数	順位	前年順位
長野	895,331	866,078	1.03	1	1
鳥取	242,006	236,876	1.02	2	2
佐賀	341,502	336,052	1.02	3	3
島根	290,787	287,984	1.01	4	4
山形	413,835	416,173	0.99	5	5
福井	289,095	290,896	0.99	6	6
山梨	340,710	358,615	0.95	7	7
新潟	835,793	901,199	0.93	8	8
沖縄	614,034	673,784	0.91	9	9
宮崎	475,451	525,130	0.91	10	10
和歌山	396,495	438,409	0.90	11	12
徳島	301,244	333,193	0.90	12	11
富山	373,232	417,655	0.89	13	13
秋田	372,432	423,422	0.88	14	15
岩手	462,657	527,840	0.88	15	14
高知	302,668	347,610	0.87	16	18
鹿児島	698,373	802,435	0.87	17	16
香川	379,408	436,397	0.87	18	19
岡山	729,365	841,427	0.87	19	17
群馬	710,549	832,679	0.85	20	21
熊本	666,671	784,239	0.85	21	20
三重	658,416	777,164	0.85	22	22
福島	665,033	786,178	0.85	23	23
岐阜	679,364	807,200	0.84	24	24
大分	447,402	533,524	0.84	25	25
長崎	508,735	626,004	0.81	26	26
愛媛	521,825	646,759	0.81	27	28
滋賀	468,735	583,047	0.80	28	27
青森	460,522	590,236	0.78	29	29
茨城	957,250	1,240,843	0.77	30	30
山口	495,352	648,672	0.76	31	31
静岡	1,188,568	1,569,721	0.76	32	32
栃木	625,263	829,828	0.75	33	33
石川	361,255	484,023	0.75	34	34
広島	828,753	1,296,517	0.64	35	35
宮城	634,412	1,010,683	0.63	36	36
奈良	356,390	595,785	0.60	37	37
福岡	1,364,373	2,438,073	0.56	38	38
愛知	1,678,213	3,250,556	0.52	39	39
兵庫	1,100,802	2,520,138	0.44	40	40
京都	519,414	1,197,345	0.43	41	41
北海道	1,189,905	2,771,079	0.43	42	42
千葉	1,209,241	2,901,178	0.42	43	43
埼玉	1,385,053	3,330,758	0.42	44	44
大阪	1,196,050	4,291,183	0.28	45	45
神奈川	1,017,532	4,358,268	0.23	46	46
東京	848,514	7,064,127	0.12	47	47
合計	31,498,010	58,226,982	0.54		

NGP、第10回豊島環境保全・再生活動を実施

岡山大学との産学連携で豊島の植生回復に貢献

NGP協同組合は9月13・14日の2日間、香川県豊島で環境保全・再生活動を行いました。

第10回目となる今回は、前回に引き続き岡山大学大学院環境生命科学研究科の嶋一徹教授が進めている調査研究及び植生回復へ向けた取り組みに協力し、産学連携で活動を展開しました。なお、前回と同様に新型コロナウイルス感染防止の観点から、事前に抗原検査を行い、豊島への定期船は使用せずチャーター船を利用するなど、可能な限り豊島住民と接触をしないように配慮してボランティア活動を行っています。

今回NGPが環境保全活動を行ったのは、豊島の産廃問題が発生するより前の1960年代後半に、不法投棄事件の首謀者が珪砂（ガラス原料）の入手を目的として大量の土砂の採掘をした現場です。豊島事件発覚当時、産業廃棄物不法投棄現場のすぐ近くにあるこの土砂採掘現場は、岩盤がむき出しの状態でした。

嶋教授は、廃棄物対策豊島住民会議の安岐正三事務局長から豊島本来の植生回復に向けた相談を受けたことをきっかけとして、この採掘現場で2015年に調査・研究を開始しました。島にもともと生育している植物の種子を発芽させてから植え付け・育成したり、島内の別の場所から移植した埋土種子の発芽量やその後の生育状況などを調査してきました。

この土砂採掘現場ではこれまで、豊島の子どもたちによる植樹やボランティアによる種まきなどの活動が行われてきました。しかし、コロナ禍の影響でボランティア活動の人手が足りず、枯れ松や雑草が増えてしまい、イノシシよけのネットの老朽化も進んでいました。NGPは嶋教授指導のもと、それら雑草及び枯れ松の除去とイノシシよけのネットの撤去、そして新たに金属製ワイヤーメッシュの設置を行いました。併せて、今年2月に豊島小・中学校、岡山大学、瀬戸内オリーブ基金と合同で植樹したコバノミツバツツジの植栽地、今年5月に作業した見学道階段脇の植栽地の雑草も除去しています。

嶋教授は「不法投棄現場が40年間放置された結果を目の当たりにしたことが、この研究をスタートさせるきっかけでした。今では現場にツツジの花が咲き、さまざまな植物も大きく育ってきています。放置すると松枯れと雑草がひどい状況となりますが、土を盛って手入れを続ければ順調に育つという見本になればよいと考えています」と、これまでの調査研究及び環境再生活動の成果を示しています。

また、今年3月にNGPが「柚の浜」に植樹したオリーブの木に、初めて実が生りました。「柚の浜」は、NGPが豊島の環境保全・再生活動を開始した2019年当初より、荒廃地の整備作業に取り組んできた場所です。オリーブの木の植樹は、整備作業後の土地の有効利用を目的とした取り組みで、5月には堆肥や水やりなどを行い、成長を促してきました。今回、全部で16本あるオリーブの木のうち、数本に実が生っていることが確認できました。

植樹したオリーブの木には、豊島を元の豊かな島に戻すというNGPの強い決意が込められています。NGPは、今後も瀬戸内オリーブ基金と協力して、「豊島事件」の悲劇を二度と繰り返さないために環境保全・再生活動に取り組んでまいります。

岡山大学大学院環境生命科学研究科の嶋一徹教授（後列右から2人目）と学生たち（前列右から2、3人目）、NGPボランティア

雑草除去作業の様子

金属製ワイヤーメッシュ設置作業の様子

植樹したオリーブの木に初めての実が生った

NGP 今月のCO_2削減量

リユース部品利用に伴うCO_2削減量

令和4年8月： **1,997t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）を対象に算出した数値です。

リターナブル梱包材利用に伴うCO_2削減量

令和4年8月： **0.4t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO_2排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員 かわら版

第33回経営者研修会を開催
経営者に求められる知識と姿勢を学ぶ

8月24～26日の3日間、あいおいニッセイ同和自動車研究所・埼玉センター（埼玉県さいたま市）で第33回経営者研修会が開催されました。

3年ぶりとなる経営者研修会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、検温やマスクの着用、定期的な消毒などの感染対策を徹底するとともに、カリキュラムもコロナ以前から一部変更した上で実施しました。

全国の組合員から経営者・幹部5人が参加し、経営者として理解すべき企業会計やコンプライアンスなどについて学習したうえで、事業計画書を作成しました。

研修終了後の感想で、(株)栃木パーツの清水暁さんは「自社に持ち帰って復習し、学んだことを発揮できるようにしていきたい」と、今後の業務につなげていく考えを示しています。また、(有)ポプラの安島勲さんは「事業計画発表では、同じ研修に参加していても、各々の置かれている立場、会社の状況や問題点、それを改善するための施策や目標が異なることを知りました。また、それに対する講師の指摘とアドバイスを聞いて“そういうとらえ方もあるのか”と感じました」と、NGPグループの経営者・幹部が集まり、それぞれの考えを聞くことができる経営者研修へ参加することの意義を改めて実感していました。

「NGPリユース部品を使って CO_2 削減キャンペーン！」開催中

NGPは、カーボンニュートラルやSDGsの取り組みを広く浸透させることを目的として、自動車整備・鈑金塗装事業者を対象とした「NGPリユース部品を使ってCO_2削減キャンペーン！」を開催しています。2022年10月1日～11月30日の期間中、リユース部品活用によるCO_2削減量の多い上位500社に対して「カーボンニュートラル賞」として、「環境貢献証明書」と香川県豊島（てしま）の名産「豊島オリーブセット」をプレゼントします。

NGPは今後もこれらの活動を通じて、ステークホルダーの皆さまと共に、カーボンニュートラル、SDGsの実現を目指してまいります。

「NGP年末大感謝キャンペーン」開催中

宝くじなどの賞品が抽選で当たる「NGP年末大感謝キャンペーン」を、11月30日まで開催しています。

NGPリサイクル部品に貼付されるギャランティシールを集めてご応募いただいた方の中から、抽選で1,000名の方に宝くじなどの賞品をプレゼントいたします。

応募用紙は各NGP組合員より皆様に配布するほか、当組合Webサイト（https://www.ngp.gr.jp/campaign/）からダウンロードすることも可能です。なお、ギャランティシールに付帯しているベルマークは切り離し、ぜひ地域社会貢献にご活用いただきたくお願い申し上げます。

お一人様何口でもご応募いただけます。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局
〒108-0074　東京都港区高輪3丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1208　FAX:03-5475-1209
https://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP
〒108-0074　東京都港区高輪3丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1200　FAX:03-5475-1201
https://www.ngp.co.jp/

FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、再生可能エネルギー 100%で印刷。印刷会社が所有する施設や車両、購入した電力などエネルギーの製造時に排出される CO_2 全量をカーボンオフセット（相殺）した「CO_2 ゼロ印刷」で印刷しています。